



イタリア・ローマで世界農業遺産の認定証が授与されます！

2022年7月に、森・里・湖（うみ）に育まれる漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」が世界農業遺産に認定されました。これを受け、2023年5月22日に、国際連合農業食糧機関（FAO）から新規認定地に認定証が授与されます。

授与式の概要

- 日 時 2023年5月22日（月）10：30～17：30（現地時間）
- 場 所 国際連合農業食糧機関（FAO）本部（イタリア・ローマ）
- 概 要 新規認定地域（12か国24地域）に、認定証が授与されます。式典は、基調講演、認定証の授与のほか、新規認定地域によるプレゼンテーションが行われます。
滋賀県琵琶湖地域を代表して、大杉副知事が認定証を受け取り、プレゼンを行います。
- 参加者 大杉副知事、本県職員、生産者等

その他イベントの概要

授与式に合わせて、展示などのイベントが開催されます。

- 日 時 2023年5月22日（月）13：30～19：00（現地時間）
2023年5月23日（火）10：00～16：00（現地時間）
- 場 所 国際連合農業食糧機関（FAO）本部（イタリア・ローマ）
- 概 要 新規認定地域を紹介する展示のほか、認定内容に関連するパフォーマンス、映像投影が行われます。

世界農業遺産とは

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられた伝統的な農林水産業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムをFAOが認定する仕組みです。

令和5年2月現在、世界で24か国74地域、うち日本では13地域が認定を受けています。

琵琶湖システムとは

琵琶湖周辺の水田は、琵琶湖の固有種であるニゴロブナなどの湖魚に絶好の繁殖環境を提供してきました。こうした水田やヨシ帯などに向かってくる湖魚の生態を巧みに利用してきた「エリ漁」は、資源にやさしい伝統的な「待ちの漁法」の代表格です。

また、河川に遡上する湖魚の産卵環境の保全に寄与する多様な主体による森林保全の営みや琵琶湖の環境に配慮した農業など、森、川、水田、湖のつながりは、世界的に貴重なものです。

このような琵琶湖と共生する農林水産業（琵琶湖システム）は、千年以上に渡って受け継がれてきたもので、2019年2月に「日本農業遺産」に認定され、2022年7月にF A O（国連食糧農業機関）の「世界農業遺産」に認定されました。

